

研究機関名：旭川医科大学

作成年月日：2025年3月31日（第1版）

承認番号	24195
課題名	ペプチド受容体核医学内用療法における定量的評価 ～逐次病変評価指標の開発～
研究期間	西暦 2025年4月25日（実施許可日） ～ 2030年3月31日
研究の対象	2021年10月1日以降に神経内分泌腫瘍に対して、 ¹⁷⁷ Lu-DOTATATE(ルタテラ®)による治療を行った患者さん
利用する試料・情報の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 診療情報（詳細：生年月日、性別、既往歴、治療歴、血液検査結果、画像診断結果（CT・MRI・核医学検査画像）等） <input type="checkbox"/> 手術、検査等で採取した組織（対象臓器等名： ） <input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> その他（ ）
利用予定日	開始日：実施許可日から1ヵ月後
試料・情報の管理について責任を有する者	旭川医科大学 学長 西川 祐司
研究の意義、目的	放射性同位元素(radioisotope:RI)を含む治療薬の体内分布を画像化することで、診断と治療を同時に行うことができるセラノスティクスは、標的病変への薬剤集積の視覚的確認や経時的比較に有用です。 ¹⁷⁷ Lu-DOTATATE によるペプチド受容体核医学内用療法(peptide receptor radionuclide therapy: PRRT)では、8週間毎に4回の治療が行われています。各治療時に病変への薬剤集積が確認できたとしても、次回治療時(8週間後)には病勢悪化により治療が継続できない症例を経験します。各治療間に病変がどう変化するかといった、治療進行中の病変の経過予測方法は現状では開発されていません。 本研究では、PRRTにおける病変への治療薬剤の集積の強さ(定量的評価)と、2回の治療後の画像撮像による経時変化率を考慮することで、各治療時点での、その後の病変経過を予測する指標を開発し、治療進行中の治療方針や治療効果の推測に有益な情報を提供することを目的とします。
研究の方法	当施設では、現在、 ¹⁷⁷ Lu-DOTATATE による治療後に薬剤の病変集積を評価するため、治療後24時間と72時間の画像をルーチンで行っています。本研究では、この治療後24時間と72時間の画像の解析を行い、病変への薬剤の集積の強さ(定量値)及びその経時変化率を測定します。また、CTやMRIにおける治療前後の病変サイズの変化率を算出し、集積の強さの変化率と病変サイズの変化率との関係性などを検討します。
その他	特にありません。
お問い合わせ先	本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支

障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

〒078-8510 北海道旭川市緑が丘東2条1丁目1番1号 放射線医学講座

研究責任者：

旭川医科大学病院 放射線部 助教 野村 健太

連絡先：電話番号 0166-68-2572(放射線医学講座)